

まちづくり交付金 モニタリングシート
草薙駅周辺地区＜平成21年度＞

平成21年12月

静岡県静岡市

様式3 評価結果のまとめ

都道府県名		静岡県		市町村名		静岡市		地区名		草薙駅周辺地区		面積		168ha	
交付期間		平成19年度～平成23年度		事後評価実施予定時期		平成23年度		モニタリング実施時期		平成21年度		交付対象事業費		8,458百万円	
1)事業の実施状況	現在の計画に位置づけ、実施済み、実施中、実施予定の事業	基幹事業	事業名		進捗状況	今後の対応			該当する指標			目標・指標への影響			
			【道路】	【高次都市施設】		【地域生活基盤施設】	【地域創造支援事業】	【事業活用調査】	【まちづくり活動支援】	指標1	指標2			指標3	
交付期間の変更		当初	平成19年度～23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況及び見直し予定	当初計画における指標		単位	従前値	基準年度	目標値	モニタリング	計測年度	目標	達成見込み	総合所見	今後の対応方針			
	指標1	南北地区間の歩行者往来度	%	28.1	H17	103.0	H23	計測できない	H21	あり	関連事業の遅れにより、事業期間内での南北自由通路等の完成は難しく、適正な評価が困難な状況である。ただし、中間時のアンケートでは整備に対し期待する人の割合が92%と大変高く、今後整備完成時には南北地区間の歩行者の往来が期待される。	適正な評価が困難であり、指標の見直しを検討する。			
	指標2	駅周辺のまちの魅力度	%	16.2	H18	28.3	H23	31.0	H21	あり	関連事業の遅れにより利用者が実感できる整備工事によって、駅前広場等駅周辺整備の事業期間内の完成は難しいことから、適正な評価が困難な状況であり、適正な評価に向けて補足指標の追加を検討する。なお、中間時のアンケートにおいては、住民へ説明の効果や住民のまちへの愛着度の高さから31%と目標値を超える値となっている為、今後整備完成時には目標値を更に超える結果が期待される。	適正な評価を行うため、補足指標の追加を検討する。			
	指標3	地域交流センター(有度生涯学習交流館)の利用者数	人/年	43,031	H17	45,079	H23	42,972	H21	あり	有度生涯学習交流館は工事未着手の為、年間利用者数はほぼ横ばいであるが、H23年度に整備完成予定であり、中間時のアンケートにおいて年間利用者数の増加予想者の占める割合が85%と大変高いことから、整備完成後において目標の達成は見込めるものとする。(事後評価後のフォローアップ調査を実施予定)	目標達成見込みである。			
	見直し指標案		見直し方法	単位	従前値	基準年度	目標値	モニタリング	計測年度	目標	達成見込み	見直し方法			
	指標1	削除	-	-	-	-	-	-	-	あり	-	-			
	指標2	変更	駅周辺のまちの魅力度(追加指標:御門台駅周辺のまちの魅力度)	%	16.2	H18	28.3	H23	30.4	H21	あり	事業の進捗状況を踏まえ、中間モニタリングにおけるアンケート調査等のもとに、まちの魅力度の適正な評価に向けた補足指標として、御門台駅周辺のまちの魅力度を追加設定する。			
	指標3	変更なし	地域交流センター(有度生涯学習交流館)の利用者数	人/年	43,031	H17	45,079	H23	42,972	H21	あり	当初計画のとおり			
指標4	追加	ワークショップ等への住民参加人数(5か年累計)	人	推定累計265	H21	累計600	H23	H19～H20累計106	H21	あり	事業に対する住民の参加意識の向上や魅力あるまちづくりに向けた住民との協力体制の構築を目指し、ワークショップ・地元説明会・市政ふれあい講座等の地元住民の5か年の累計参加人数を新たな指標として設定する。				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	モニタリング	計測年度	目標	達成見込み	総合所見	今後の対応方針			
	その他の数値指標1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
4)定性的な効果発現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・市政ふれあい講座や各事業説明会による住民への情報提供の実施により、地域の将来像への関心が高まってきている。 ・市内において横断的な事業検討体制が構築された。 													
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等										
	モニタリング		・H21 指標の達成状況を計測して、市内内組織による横断的な連絡調整会議を実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	・モニタリング調査は今後も継続して実施する。 ・今後の計画変更に向けて、構築された横断的組織において検討を行っていく。										
	住民参加プロセス		・H21 市政ふれあい講座や各事業説明会による住民への情報提供の実施 ・H21 地域交流センター(有度生涯学習交流館)整備にあたり、ワークショップ等による基本計画策定への住民参加の実施 ・H21 中間評価にあたり地元住民へアンケート調査を実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない	・引き続き、事業に対する住民の参加意識の向上や魅力あるまちづくりに向けた住民との協力体制の構築を目指し、ワークショップ・地元説明会・市政ふれあい講座等を実施する。 ・ワークショップ等への住民参加人数を新たな指標として設定する。										
	持続的なまちづくり体制の構築		まちづくり活動支援事業の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない	・地域の様々な団体・組織間の連携の強化と大学生の若い力を活かした交流やイベント等の活性化に向けて、ワークショップなどによる地域交流の推進を目指す。										
6)モニタリングの所見	総合所見		順調	地元住民を対象にアンケート調査を実施したところ、事業の遅れにより効果発現は期待できないと考えていたが、住民の事業への期待度や愛着度の高さ等が影響し、駅周辺のまちの魅力度は向上している。しかし、事業の遅れから計画期間内での完成が難しい事業が発生しており、当初設定した指標の適正な評価が困難なものもあることから、指標の見直しを必要とする。		今後の事業の改善点				事業期間内で実施可能な事業への修正とともに、まちづくりの目標、目標を定量化する指標の再検討を行い、整備効果を適切に評価できる体制を整備する。住民の参加の向上を図り、地域全体によるまちづくりに向けた機運の向上を目指す。					
	要改善		●												

まちづくり交付金 モニタリングシート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 効果発現要因の整理

(4) モニタリングの所見

- 添付様式5-① まちの課題の変化
- 添付様式5-② 総合所見・今後の事業の改善点

(6) モニタリング原案の公表

- 添付様式6 モニタリング原案の公表

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式7 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	● (予定)		南北地区間の歩行者往来度	削除	計画期間内で完成が困難な事業の発生により、整備効果を適正に評価することが困難なため、評価指標から削除する。
			—	ワークショップ等への住民参加人数	事業に対する住民の参加意識の向上や魅力あるまちづくりに向けた住民との協体制の構築を目指し、ワークショップ・地元説明会・市政ふれあい講座等への地元住民の5か年の累計参加人数を新たな指標として設定する。
C. 目標値	● (予定)		駅周辺のまちの魅力度	駅周辺のまちの魅力度 (補足指標の追加 :御門台駅周辺のまちの魅力度 従前値:7.1%→目標値:14.3%)	関連事業の遅れにより利用者が実感できる整備工事に至っておらず、駅前広場等駅周辺整備の事業期間内の完成は難しいことから、適正な評価が困難な状況であり、適正な評価に向けて補足指標を追加する。
			—	ワークショップ等への住民参加人数(5か年累計) 従前値:推定累計265人→目標値:600人	事業に対する住民の参加意識の向上や魅力あるまちづくりに向けた住民との協体制の構築を目指し、ワークショップ・地元説明会・市政ふれあい講座等への地元住民の5か年の累計参加人数を新たな指標として設定する。
D. その他(計画区域)		●	—	—	—
(課題)			—	—	—

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業												
事業	事業箇所名	当初計画		モニタリング時		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	モニタリング時の状況			今後の事業見込み	まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			未着手	事業中	完成		
道路	(都)一里山長崎線整備事業	1,757	L=357m W=18m	1,747	L=357m W=18m	事業費の精査	影響なし		●		H23 一部供用開始予定	影響なし
	市道草薙32号線整備事業	1,043	L=190m W=14m	1,044	L=190m W=14m	事業費の精査		●			削除(一部提案事業へ移行予定)	評価指標の見直し
	JR草薙駅北口駅前広場整備事業	538	A=2800m2	686	A=2800m2	本市、浸水対策プランに基づき、雨水貯留タンク等の事業費の追加	影響なし		●		削除(一部提案事業へ移行予定)	評価指標の見直し
	JR草薙駅南口駅前広場整備事業	109	A=2800m2	138	A=2800m2	事業費の精査	影響なし	●			削除(一部提案事業へ移行予定)	評価指標の見直し
	市道草薙楠4号線・交差点改良事業			79	L=30m W=7m	市道草薙32号線の整備に併せ、公安委員会との協議により事業を追加	影響なし	●			削除(一部提案事業へ移行予定)	評価指標の見直し
公園												
河川												
下水道												
駐車場有効利用システム												
地域生活基盤施設	JR草薙駅北口駐輪場・便所整備事業			335	A=894m2 N=220台	当初はJR高架下の整備を予定していたが、民地への整備に変更	影響なし	●			削除(一部提案事業へ移行予定)	評価指標の見直し
高質空間形成施設												
高次都市施設	JR草薙駅南北自由通路整備事業	1,670	W=6m L=95m	1,633	W=6m L=95m	事業費の精査。	影響なし	●			削除(一部提案事業へ移行予定)	評価指標の見直し
	有度地域交流センター整備事業	305	鉄骨3階建 床面積1400m2	314	鉄骨2階建 床面積1000m2	事業費の精査	影響なし	●			H23完成予定	影響なし
	七ツ新屋地下道整備事業	553	W=4m L=95m	548	W=4m L=95m	事業費の精査	影響なし		●		削除(一部提案事業へ移行予定)	評価指標の見直し
既存建造物活用事業												
公営住宅等整備												
土地区画整理事業(都市再生)												
住宅市街地総合整備事業												

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法とモニタリング値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		目標値(ウ)		モニタリング(エ)		現段階での目標達成見込み		総合所見	今後の方針
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	実施年度	実施年度	あり	なし				
指標1 (削除予定)	南北地区間の歩行者往来度	%	-	-	28.1	H18	61.5	H23	計測できない	H21	●		関連事業の遅れにより、事業期間内での南北自由通路等の完成は難しく、適正な評価が困難な状況である。ただし、中間時のアンケートでは整備に対し期待する人の割合が92%と大変高く、今後整備完成時には南北区間の歩行者の往来が期待される。	適正な評価が困難であり、指標の見直しを検討する。
指標2 (変更予定)	駅周辺のまちの魅力度	%	-	-	16.2	H18	28.3	H23	31.0	H21	▲		関連事業の遅れにより利用者が実感できる整備工事に至っておらず、駅前広場等駅周辺整備の事業期間内の完成は難しいことから、適正な評価が困難な状況であり、適正な評価に向けて補足指標の追加を検討する。なお、中間時のアンケートにおいては、住民へ説明の効果や住民のまちへの愛着度の高さが31%と目標値を超える値となっている為、今後整備完成時には目標値を更に超える結果が期待される。	適正な評価を行うため、補足指標の追加を検討する。
	追加指標: 御門台駅周辺のまちの魅力度	%	-	-	7.1	H21	14.3	H23	7.1	H21	●			
指標3	地域交流センターの利用者数	人/年	-	-	43,031	H17	45,079	H23	42,972	H21	●		有度生涯学習交流館は工事未着手の為、年間利用者はほぼ横ばいであるが、H23年度に整備完成予定であり、中間時のアンケートにおいて年間利用者数の増加予想者の占める割合が85%と大変高いことから、整備完成後において目標の達成は見込めるものと考えられる。	引き続き事業の推進を図り、事後評価以降にフォローアップ調査を実施する。
指標4 (追加予定)	ワークショップ等への住民参加人数(5カ年累計)	人	-	-	推定累計 265	H21	累計 600	H23	推定累計 265	H21	●		市民参加による魅力ある駅周辺整備にむけた環境形成と、交流やイベント等による地域の活性化を目指し、ワークショップ、説明会等への市民の参加状況を新たに評価指標として設定する。	ワークショップ、説明会、市政ふれあい講座等への市民の参加を推進し、地域住民の関心と事業達成への機運を高めることを目指す。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法とモニタリング値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	計画以前の値(ア)		従前値(イ)		目標値(ウ)		モニタリング(エ)		本指標を取り上げる理由	総合所見	今後の方針
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	実施年度	実施年度					
その他の数値指標1	-												

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- 各事業の説明会やワークショップ等により、地域の将来像への関心は高まってきている。
- 市庁内において横断的な事業検討体制が構築された。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の方針等
指標の達成状況を計測して、市庁内組織による横断的な連絡調整会議を実施	予定どおり実施した	● 実施時期【H21.4～】 実施結果 都市再生整備計画及び個別の各事業の進捗状況の把握 アンケート調査の実施 ● 目標及び評価指標の見直しによる、今後の計画変更に向けた対応の検討	・モニタリング調査は今後も継続して実施する。 ・今後の計画変更に向けて、構築された横断的組織において検討を行っていく。
	予定はなかったが実施した		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の方針等
市政ふれあい講座や各事業説明会による住民への情報提供の実施	予定どおり実施した	● 実施時期【H21.6～】 ● 実施結果 地元住民へ広く情報提供を行い、事業概要の周知と理解を図るとともに、地域の将来像に対する住民の関心が高まった。	・引き続き、事業に対する住民の参加意識の向上や魅力あるまちづくりに向けた住民との協力体制の構築を目指し、ワークショップ・地元説明会・市政ふれあい講座等を実施する。 ・ワークショップ等の住民参加人数を新たな指標として設定する。
	予定はなかったが実施した		
モニタリング時点では実施していない			
地域交流センター(有度生涯学習交流館)整備にあたり、ワークショップ等による基本計画策定への住民参加の実施	予定どおり実施した	● 実施時期【H21.9～】 有度地生涯学習交流館の基本計画の策定に当たり地元住民の参加によるワークショップを実施している。	
	予定はなかったが実施した		
中間評価にあたり地元住民へアンケート調査を実施	予定どおり実施した	● 実施時期【H21.9～】 中間評価に向けた地元住民に対するアンケート調査を実施した。	
	予定はなかったが実施した		
	モニタリング時点では実施していない		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
まちづくり活動支援事業の実施	予定どおり実施した	-	-	地域の様々な団体・組織間の連携の強化と大学生の若い力を活かした交流やイベント等の活性化に向けて、ワークショップなどによる地域交流の推進を目指す。
	予定はなかったが実施した			
	モニタリング時点では実施していない			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり交付金事業草薙駅周辺地区連絡調整会議	清水駅周辺整備課、都市計画課、街路課、生涯学習推進課[担当レベル]	H21.8～	清水駅周辺整備課

添付様式4-② 効果発現要因の整理

【当初計画】		指標の種類	指標1	指標2	指標3		
		指標名	南北地区間の歩行者往来度	駅周辺のまちの魅力度	地域交流センターの利用者数		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路：(都)一里山長崎線	◎	関連事業の遅れにより、事業期間内の南北自由通路等の完成は難しく、適正な評価が困難な状況である。ただし、中間時のアンケートでは整備に対し期待する人の割合が92%と大変高く、今後整備完成時には南北区間の歩行者の往来が期待される。	◎	関連事業の遅れにより利用者が実感できる整備工事に至っておらず、駅前広場等駅周辺整備の事業期間内の完成は難しいことから、適正な評価が困難な状況であり、適正な評価に向けて補足指標の追加を検討する。なお、中間時のアンケートにおいては、住民へ説明の効果や住民のまちへの愛着度の高さから31%と目標値を超える値となっている為、今後整備完成時には目標値を更に超える結果が期待される。	—	有度生涯学習交流館は工事未着手の為、年間利用者はほぼ横ばいであるが、H23年度に整備完成予定であり、中間時のアンケートにおいて年間利用者数の増加予想者の占める割合が85%と大変高いことから、整備完成後において目標の達成は見込めるものと考え。
	道路：市道草薙32号線	◎					
	道路：JR草薙駅北口駅前広場	◎					
	道路：JR草薙駅南口駅前広場	◎					
	道路：市道草薙橋4号線 交差点改良	◎					
	地域生活基盤施設：JR草薙駅北口駐輪場・便所整備	◎					
	高次都市施設：JR草薙駅南北自由通路整備事業	◎					
	高次都市施設：有度地域交流センター整備事業	◎					
高次都市施設：七ツ新屋地下道整備事業	◎						
提案事業	地域創造支援事業：JR草薙駅橋上駅舎整備事業	◎		◎		—	
	地域創造支援事業：JR草薙駅北側歩道整備事業	◎					
	地域創造支援事業：市民サービスコーナー整備事業	—					
	地域創造支援事業：旧清水有度公民館解体事業	—					
	地域創造支援事業：第二七ツ新屋踏切撤去事業	◎					
	事業活用調査：一里山長崎線詳細設計	◎					
	まちづくり活動推進事業：住民交流のまちづくり活動支援事業	—					
関連事業	バリアフリー基本構想重点整備地区におけるバリアフリー改良事業	○		○		○	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献している。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献している。
- △：完成直後又は事業開始直後のため、効果の発揮に至っていない。
- ×：事業が完成したが、期待通りの効果を発揮していない。
- ：評価できない。
- 未着手又は事業中のため評価できない。
- 事業と指標とに関係がないので評価できない

今後の方針等	適正な評価が困難であり、指標の見直しを検討する。	適正な評価を行うため、補足指標の追加を検討する。	引き続き事業の進捗を図り、事後評価以降にフォローアップ調査を実施する。
--------	--------------------------	--------------------------	-------------------------------------

【見直し検討案】		指標の種別	指標1(削除)	指標2(変更後)	指標3	指標4(追加)			
		指標名	南北地区間の歩行者往来度	駅周辺のまちの魅力度	地域交流センターの利用者数	ワークショップ等への住民参加人数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	道路:(都)一里山長崎線	—	削除する。	◎	関連事業の遅れにより利用者が実感できる整備工事に至っておらず、駅前広場等駅周辺整備の事業期間内の完成は難しいことから、適正な評価が困難な状況であり、適正な評価に向けて補足指標の追加を検討する。なお、中間時のアンケートにおいては、住民へ説明の効果や住民のまちへの愛着度の高さから31%と目標値を超える値となっている為、今後整備完成時には目標値を更に超える結果が期待される。	—	有度生涯学習交流館は工事未着手の為、年間利用者はほぼ横ばいであるが、H23年度に整備完成予定であり、中間時のアンケートにおいて年間利用者数の増加予想者の占める割合が85%と大変高いことから、整備完成後において目標の達成は見込めるものと考えられる。	○	市民参加による魅力ある駅周辺整備にむけた環境形成と、交流やイベント等による地域の活性化を目指し、ワークショップ、説明会等への市民の参加状況を新たに評価指標として設定する。
	道路:市道草薙32号線	—		—					
	道路:JR草薙駅北口駅前広場	—		—					
	道路:JR草薙駅南口駅前広場	—		—					
	道路:市道草薙橋4号線・交差点改良	—		—					
	地域生活基盤施設:JR草薙駅北口駐輪場・便所整備	—		—					
	高次都市施設:JR草薙駅南北自由通路整備事業	—		—					
	高次都市施設:有度地域交流センター整備事業	◎		◎					
	高次都市施設:七ツ新屋地下道整備事業	—		—					
	提案事業	地域創造支援事業:JR草薙駅橋上駅舎整備事業		—		—			
地域創造支援事業:JR草薙駅北側歩道整備事業		—	—						
地域創造支援事業:市民サービスコーナー整備事業		◎	◎						
地域創造支援事業:旧清水有度公民館解体事業		—	◎						
地域創造支援事業:第二七ツ新屋踏切撤去事業		—	—						
事業活用調査:一里山長崎線詳細設計		◎	◎						
まちづくり活動推進事業:住民交流のまちづくり活動支援事業		◎	◎						
市道草薙32号線設計・測量調査		◎	—						
JR草薙駅北口駅前広場設計・測量調査		◎	—						
JR草薙駅南口駅前広場設計・測量調査		◎	—						
市道草薙橋4号線・交差点改良設計・測量調査		○	—						
JR草薙駅北口駐輪場・便所設計・測量調査		◎	—						
JR草薙駅南北自由通路設計・測量調査		◎	—						
七ツ新屋地下道設計・測量調査	◎	—							
JR草薙駅橋上駅舎設計・測量調査	◎	—							
R草薙駅北側歩道設計・測量調査	○	—							
関連事業	バリアフリー基本構想重点整備地区におけるバリアフリー改良事業	○	○						
		—	—						

※指標改善への貢献度

- ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献している。
- :事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献している。
- △:完成直後又は事業開始直後のため、効果の発揮に至っていない。
- ×:事業が完成したが、期待通りの効果を発揮していない。
- :評価できない。
未着手又は事業中のため評価できない、
事業と指標とに関係がないので評価できない

見直し方法	削除する。	事業の進捗状況を踏まえ、中間モニタリングにおけるアンケート調査等のもとに、まちの魅力度の適正な評価に向けた補足指標として、御門台駅周辺のまちの魅力度を追加設定する。	引き続き事業の進捗を図り、事後評価以降にフォローアップ調査を実施する。	事業に対する住民の参加意識の向上や魅力あるまちづくりに向けた住民との協力体制の構築を目指し、ワークショップ・地元説明会・市政ふれあい講座等への地元住民の5か年の累計参加人数を新たな指標として設定する。
-------	-------	--	-------------------------------------	--

(4) モニタリングの所見

添付様式5-① まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	モニタリングの時点で達成されたこと (課題の改善状況)	交付期間中に解決すべき 残された課題	交付期間中に発生した 新たな課題
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道による南北分断、生活利便性の南北格差を解消するため、南北方向の交通・歩行者連絡性を抜本的に改善する必要がある。 ・特に、JR草薙駅において、南北連絡性の確保、北口開設、交通結節機能の拡充は大きな課題となっている。 ・これらの整備・改善にあわせて、南北地区それぞれにふさわしい駅前の顔づくりを行うことが課題である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・各事業の実施に向けて、関係機関等との調整や事前調査による事業達成の基盤づくりを進めるとともに、地元住民の関心と事業達成への機運を高めることが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸々の課題解決に向けた調整に時間を要し、多くの事業に遅れが生じており、事業期間内での完成が難しい見通しとなっている事業もあることから、事業の推進を図るとともに、整備目標、評価指標、実施事業など整備計画全体の見直しを検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・南北地区の住民交流や、両方の住民が相互に使いあうような交流施設等の整備と有効利用が必要である。 ・まちづくりに際して、後背丘陵地の文教施設、自然・レクリエーション環境、歴史資源などの地域資源を効果的に活用するとともに、地元大学と連携を図りつつ、大学と地域住民、さらには企業・鉄道事業者等が参加した体制によってまちづくりに係る検討や活動を推進することが必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な団体・組織間の連携の強化と大学生の若い力を活かした交流やイベント等の活性化に向けて、地域交流の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の参加の向上を図り、地域全体によるまちづくりに向けた機運の向上を目指す。

添付様式5-② 総合所見・今後の事業の改善点

総合所見		今後の事業の改善点	
		具体的項目	内容
順調	●	まちづくり交付金に係る庁内連絡体制の強化	連絡調整会議を定期的実施して、今後の計画変更及び進捗管理のため情報共有を密に行う。
計画・事業の進め方の改善が必要		地域住民との情報の共有化	整備計画の実施状況等を地域住民と共有化しながら、事業の推進に向けた機運の向上を図る。
鉄道事業者及び関係機関等との調整に時間を要しており、事業の遅延が発生している。	都市再生整備計画の見直しの必要性	実施予定事業の見直し	計画期間内に完成困難な事業について、整備計画の見直し、検討が必要である。
		評価指標の見直し	評価が困難な指標について、指標の見直し、変更を行うとともに、新たに評価指標を追加する。

(5) モニタリング原案の公表

添付様式6 モニタリング原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	中間評価案の要旨を市の公式HP上に掲載	平成21年10月9日～11月10日	平成21年10月9日～11月10日	郵送、ファクシミリ送信、電子メール及び市役所都市計画課及び各区役所窓口へ直接持参	都市計画課 清水駅周辺整備課
広報掲載・回覧・個別配布	中間評価案の公表場所・公表方法を市の工法に掲載	平成21年度9/15号、10/15号	平成21年10月9日～11月10日		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	中間評価案の市役所都市計画課及び各区役所窓口で閲覧	-	-		

住民の意見	-				
-------	---	--	--	--	--

(6) 有識者からの意見聴取

添付様式7 有識者からの意見聴取

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
-	-	-
-	-	-

有識者の意見	-
--------	---